

清須市認知症施策について

【国の動向】

- 認知症高齢者の数は、平成24年で462万人と推計されており、平成37年には約700万人、65歳以上の高齢者の約5人に1人に達することを見込んでいる。
- 厚生労働省では、団塊の世代が75歳以上となる平成37年を見据え、認知症の人の意思が尊重され、できる限り住み慣れた地域のよい環境で自分らしく暮らし続けることができる社会の実現を目指し、『認知症施策推進総合戦略（新オレンジプラン）～認知症高齢者等にやさしい地域づくりにむけて～』を策定

【新オレンジプランの施策（平成27年1月27日）】

- 1 認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進
- 2 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供
- 3 認知症の人の介護者への支援
- 4 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進
- 5 若年性認知症施策の強化
- 6 認知症の人やその家族の視点の重視
- 7 認知症予防法、診断法、治療法、リハビリテーション・介護モデル等の普及の推進など

●介護保険法一部改正

（包括的支援事業の充実）

・認知症施策の推進

平成30年度までにすべての市町村で事業実施

■ 清須市の認知症患者の推定値

（平成27年12月1日現在）

項目	人数（見込数）
65歳以上高齢者人口	15,443人
認知症有病率推定値（15%）①	2,316人
MCI（正常と認知症の間）状態の有病率推定値（13%）②	2,008人
①+②推定値	4,324人

※「認知症対策総合研究事業報告」（厚生労働省）より

①認知症有病推定値 ⇒ 15% ②MCI状態有病率推定値 ⇒ 13%

参考：平成26年度介護保険主治医意見書で、認知症があると判断された人 1,719人（2,487人中）

1 清須市の認知症への理解を深めるための普及・啓発の推進状況

■ 清須市の認知症サポーター及びキャラバンメイト数

（平成27年12月末現在）

認知症キャラバンメイト数	実人数 117人
認知症サポーター数	延べ 5,927人

※キャラバンメイトとは…認知症サポーターを養成する「認知症サポーター養成講座」を開催し、講師役を務めていただく方（キャラバン・メイト研修の受講、登録が必要）

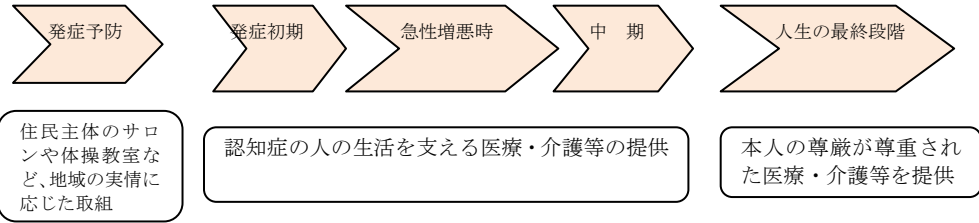
※認知症サポーターとは…認知症について正しく理解し、認知症の人や家族を温かく見守り、支援する応援者市町村や職場などで実施されている「認知症サポーター養成講座」を受講した方

■ 認知症サポーター養成講座開催数及び受講者数

（平成27年12月末現在）

種別	平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年
開催数	8回	14回	20回	26回	25回
養成数	244人	423人	634人	1,078人	1,109人
小学校 （内数）	市内小学生	0校	0校	4校	3校
		15人	0人	293人	120人
中学校 （内数）		1校	2校	3校	3校
		26人	69人	97人	82人
延べ人数	2,683人	3,106人	3,740人	4,818人	5,927人

2 認知症の容態に応じた適時・適切な医療・介護等の提供



- ①本人主体の医療・介護等の徹底
- ②発症予防の推進
- ③早期診断・早期対応のための体制整備

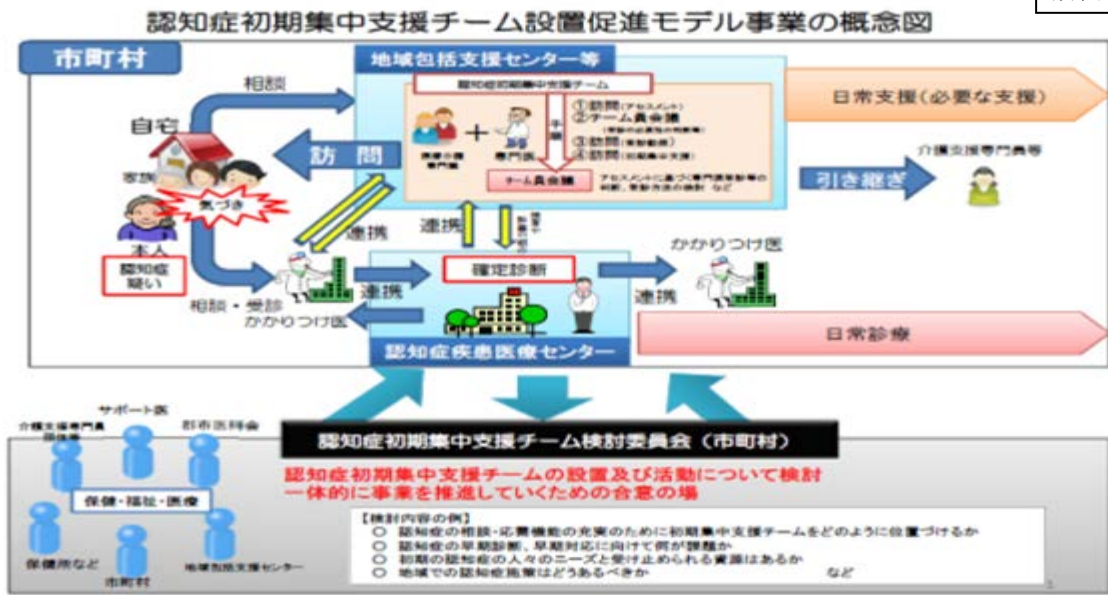
ものわすれ相談 年6回（清須市清洲総合福祉センター、にしびさわやかプラザ）

- ・かかりつけ医の認知症対応向上のための研修、認知症サポート医の養成
- ・認知症に関する専門医、認定医等の養成の拡充 ・認知症疾患医療センターの整備
- ・歯科医師・薬剤師の認知症対応力向上のための研修

平成 28 年度実施予定

・認知症初期集中支援チームの設置

別紙



- ※ 認知症サポーター医とは
地域でかかりつけ医の認知症診断等に関する相談役等の役割を担う医師
- ※ 認知症疾患医療センターとは
認知症の速やかな鑑別診断や、行動・心理症状（BPSD）と身体合併症に対する急性期医療、専門医療相談、関係機関との連携、研修会の開催等の役割を担う。
- ※ 認知症初期集中支援チームとは
医療・介護の専門職が家族の相談等により認知症が疑われる人や認知症の人及びその家族を訪問し、必要な医療や介護の導入・調整や、家族支援などの初期の支援を包括的、集中的に行い、自立生活のサポートを行うチームをいう。

認知症の主な症状である記憶障害等の進展に関連しながら、身体的要因や環境要因等が関わって現れる、抑うつ・興奮・徘徊・妄想などの症状

④医療・介護等の有機的な連携の推進

- ・認知症ケアパス（別紙）
- ・認知症地域支援推進員の配置（平成 26 年度 1 名配置・平成 27 年度 2 名配置）

※医療機関や介護サービス及び地域の支援機関との連携の支援や、認知症の人やその家族等への相談支援を行う。

⑤認知症の人の生活を支える介護の提供

種 類	名 称 (定 員)
認知症対応型共同生活介護 (グループホーム)	ペガサス春日 (9名) グループホームきよす (18名) グループホーム須ケ口 (18名)
小規模多機能型居宅介護	遊楽苑西枇杷島 (25名)

3 認知症の人の介護者への支援

介護者の精神的身体的な負担の軽減や、生活と介護の両立を支援する取組

■ 認知症カフェ

実施場所	ペガサス春日 喫茶コーナー	清洲の里
	福祉カフェ「なごみ」	福祉サロン「かぼちやカフェ」
開設日時	平成 26 年 4 月～ 毎週土曜日 午前 10 時～12 時	平成 27 年 6 月～ 第 1・3 火曜日 午前 10 時～12 時
運 営	ボランティア	ボランティア

4 認知症の人を含む高齢者にやさしい地域づくりの推進 (安全確保)

■ 高齢者の見守りを目的とした事業一覧

事業名	内 容
緊急通報システム事業	ひとり暮らし高齢者等の自宅に通報機器を設置し、緊急時に警備会社または受信センターへ通報することにより、必要な措置を講じる。
配食サービス事業	調理や買い物の困難な一人暮らし高齢者及び高齢者のみの世帯等に対し、食事を配達することにより、食生活の改善、健康保持及び安否の確認を行なう。
「高齢者見守り活動」事業	市と協定を締結した市内事業者が、日常の業務の中でひとり暮らし高齢者等の見守りを行い、異変を感じた際に高齢福祉課又は地域包括支援センターに通報し、高齢者等へ必要な支援を行う。
高齢者の見守り、孤立化防止の啓発事業	出前講座等において、職員が地域に出向き「高齢者の見守り活動や孤立化防止」活動の普及啓発を行なう。
救急医療情報キット	自身の氏名、住所、生年月日、血液型などの基本情報、かかりつけの病院や持病などの医療情報、緊急時の連絡等を記入した用紙を専用のボトルにいれ、冷蔵庫等で保管し、万一の場合救急隊が病院に搬送する際にその情報を利用して迅速な対応ができる。
民生委員、地域包括支援センター職員による訪問	一人暮らし高齢者を対象に、「一人暮らし高齢者登録事業」及び「救急医療情報キット配布事業」の勧奨をかねて、民生委員が一人暮らし高齢者の訪問を行なう。地域包括支援センターが家族や地域の住民から高齢者に関する相談を受け、訪問等により必要な支援に結びつける。
成年後見利用制度	市長申立て等に係る低所得者の高齢者に係る成年後見制度の申立てに要する経費等

◎各種事業実績

■ 高齢者の見守り事業実績

- ・緊急通報システム事業…平成26年度実績（）内は平成27年度の平成27年11月末実数

実設置件数	救急搬送対応件数	相談等対応件数
231件 (238件)	37件 (19件)	88件 (54件)

- ・配食サービス事業…平成26年度実績（）内は平成27年度の平成27年12月末実数

配食サービス利用者数	339人 (284人)
------------	-------------

- ・「高齢者見守り活動」事業…平成26年度実績

新聞販売	牛乳販売	水道局	電力会社	ガス会社	郵便局	金融機関	その他	合計
11	4	2	1	1	8	13	5	45

- ・清須市救急医療情報キット配布事業

平成23年	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年(12月末)	合計
936人	174人	130人	214人	119人	1,573人

■ 徘徊高齢者登録事業

(平成27年12月末現在)

登録者数	25人
------	-----

■ 行方不明高齢者数

(平成27年度12月末現在)

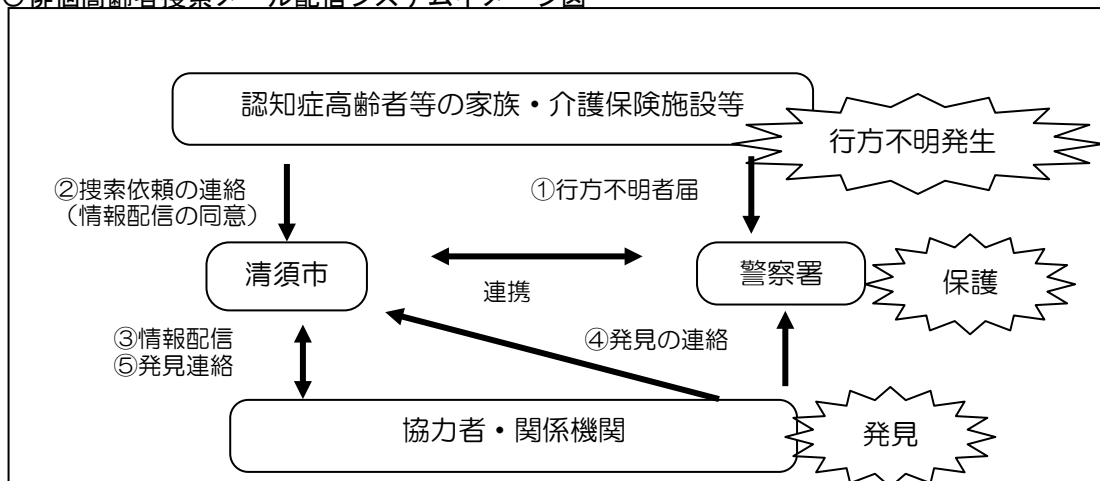
年度	行方不明高齢者数 ①=②+③	発見状況の内訳			
		発見された行方不明高齢者数			未発見者数③
		計②	発見時生存数	発見時死亡数	
平成24年度	5人	5人	5人	0人	0人
平成25年度	4人	4人	4人	0人	0人
平成26年度	3人	3人	3人	0人	0人
平成27年度	2人	2人	2人	0人	0人

■ 清須市徘徊高齢者捜索メール配信事業

(平成27年8月1日事業開始)

市内に居住する認知症高齢者等が徘徊により行方不明となった場合に、家族等からの依頼により、その方の身体的特徴や服装等の情報を協力者や関係機関に対してメール配信し、行方不明者の早期発見に繋げる。

○徘徊高齢者捜索メール配信システムイメージ図



清須市徘徊高齢者捜索メール配信システム登録者数

(平成27年12月末現在)

登録者数	114人	配信回数	1回 (近隣市より依頼)
------	------	------	--------------